

大阪ごみを考える通信

NPO 法人 大阪ごみを考える会
<http://osaka-gomi.sakura.ne.jp/>
【連絡先】吹田市江坂町 4-23-7-309 水川方
TEL/FAX (06) 6338-3908
EMAIL : info@osaka-gomi.sakura.ne.jp
【郵便口座】00960-9-25143

2024年度 NO. 6 2025.3.31

目 次

1. 水問題研修会

大ピンチ!!「日本の水の安全神話」

どうする?!永遠の化学物質 PFAS 汚染と水道管老朽化問題

PFAS 汚染と水道管老朽化問題の2つのテーマで水問題研修会が NPO 法人グリーンコンシューマー大阪ネットワークの主催で開かれました。各地で PFAS による水道水や地下水・河川の汚染が問題になっています。元大阪府環境行政担当職員で当会会員でもある末田一秀さんに PFAS 汚染問題を、NPO 法人水政策研究所の田中淳史さんに水道管老朽化問題をお話していただきました。

2. 【私の履歴書】(その2) 市民運動と共に 阪野 修(1949 年生まれ)

今や牛乳パックは「洗って開いてリサイクル」が定着して消費者の多くが回収に協力しています。この運動は障がい者団体が取り組める活動となりましたが、環境運動や生協運動の原理主義者は「牛乳はビンで!」と正論を唱え、牛乳パックでの流通に批判の目が向けられたこともあります。

3. 「総論賛成・各論?」問題を克服するシリーズ(その2)

プラスチックのリサイクル現場で行われる手選別作業は、人件費の削減の意味から民間委託で行われることがほとんどです。しかし、汚れていたり発泡トレイが割れたりすると異物扱いになります。また何故か刃物が混ざったりして取り除かなければなりません。原料リサイクルできるのは PE、PP ですが、他の材質のプラスチックが集まるのが現場なのです。

4. 関本さんのコラム「ヤマノススメ」六甲山編③

昔、日本列島は大陸と陸続きでした。隆起と沈降を繰り返して現在の列島の姿になりました。「六甲変動」により六甲山系と大阪湾ができました。阪神淡路大震災では、震源は野島断層付近でした。

5. 加藤さんのコラム 年賀状、人生絵巻

職業に貴賤はないということがこと叙述に関してはどうだろうか?たとえば深夜労働の道路工事や鉄道の保線の仕事をしている人達、この人たちのおかげで私たちは日々の暮らしを営むことができるのです。

水問題研修会

大ピンチ！！「日本の水の安全神話」

どうする？！永遠の化学物質 PFAS（ピーファス）汚染と水道管老朽化問題

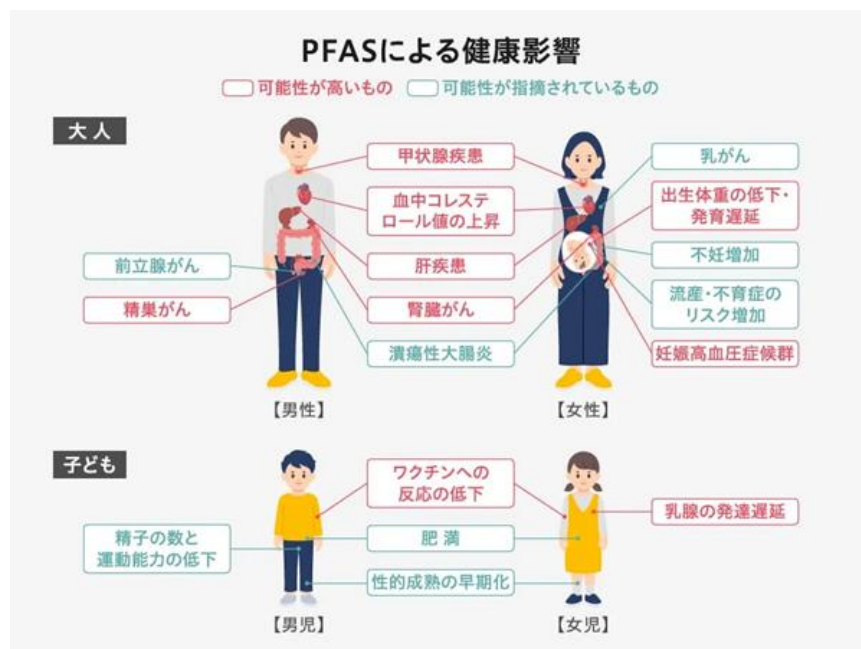
表題の水問題研修会が3月23日吹田市内で開かれました。PFAS 汚染問題は末田一秀さん（元大阪府環境行政担当/グリーンコンシューマー大阪理事）を講師にお招きし、水道管老朽化問題は話題提供者として、NPO法人水政策研究所の田中敦史さんに来ていただきました。もうお一人、大阪府下の水道行政担当者を予定していましたが、断ってられました。

今号では PFAS 汚染問題の一部をレポートします。PFAS 続編と水道管老朽化問題については次号に掲載します。

1 PFAS 汚染問題

PFAS は有機フッ素化合物の総称で PFOS、PFOA、PFHxA など1万種類以上あります。熱や薬品に強く、撥水性、撥油性などの特性によりフライパン、防水衣類、泡消火剤などに使われてきました。しかし自然界では分解しにくく「永遠の化学物質」と呼ばれています。また、発がん性や子供の成長への影響など健康リスクが取りざたされています。現在は PFOS が2010年から、PFOA が2021年から、年 PFHxA が2024年から製造輸入禁止になっていますが、禁止されると似たようなものに置き換わるという現象が起きています。

国は2020年にPFOS、PFOAの合計値を50ng/lとする水道水の「暫定目標値」を設定しましたが、検査などの法的な義務付けはありませんでした。環境省の審



日本財団ジャーナルより

メディアでも報道されました。環境省が2019年に行ったPFOS及びPFOAの河川や地下水などに対する調査結果によると、沖縄市の河川でPFOS+PFOAの濃度1508.1 ng/lが検出され、また大阪府摂津市の地下水で1855.6 ng/lと全国で一番高い数値が検出されています。摂津市にはダイキン淀川製作所があ

議会は2025年2月、この合計値50ng/lを正式な水質基準にする方針を了承しました。これにより、水道事業者を対象とした定期的な水質検査の実施と、基準値を超えた場合の原因特定や改善措置が義務付けられます。しかし、施行は2026年4月からで、PFHxAは据え置かれました。

PFAS 汚染というと沖縄県の米軍基地周辺の河川や岡山県吉備中央町の水道水で高濃度のPFASが検出されたことがメデ

り、2012 年まで PFOA を製造していました。

河川や地下水の環境基準や工場・事業場からの排出基準は？

水道水に基準を設けるのであれば取水する河川や地下水にも環境基準をしなければなりませんが、2020 年 5 月に PFOS 及び PFOA が要監視項目に位置づけられ、自治体による計画的な測定が行われるようになりましたが、環境基準になっていません。各地の工場・事業場などの汚染源に対策を求めるための排出基準も決まっていないのが現状です。

廃棄物対策はどうなっている？

兵庫県の丸尾まき県議員が独自に調査を行い、神戸市西区の明石川上流部の水路で 10 万 ng/l の PFOA が検出

され（国の暫定基準値の 2 千倍）、汚染源が産廃処分場であることを突き止めました。産廃処分場には管理型と安定型があり、安定型処分場は、腐敗する廃棄物が搬入されないことを前提に修水設備も排水処理設備もないため、廃棄物と接触した水はそのまま地下に浸透して流れていきます。安定型処分場で処分可能な廃プラスチック類・金属くず・ガラスくずなどが PFOA 汚染源となっていると考えられます。

安定型処分場は以前から環境汚染が問題になっており、日本弁護士連合会は、2007 年に廃棄物処理法を改正して、安定型処分場の区分をなくすよう提言を行っています。裁判で建設差し止めの判決が出て、中央環境審議会の関連部会でも議論が行われましたが、2010 年に「さらに検討して行くべき」と先送りしてしまいました。環境省は、「PFOS 及び PFOA 含有廃棄物の処理に関する技術的留意事項」を 2022 年に公表、適正な処理を排出事業者に求めています。適正な処理方法を示しただけにとどまっています。これは強制的な規制ではないため、実効性は乏しいのです。

各地で、安定型処分場は問題を引き起こしています。PFAS 汚染を防止する手段はありません。展開検査で除去することは不可能です。有害廃棄物（特別管理廃棄物）に位置づけて、法規制をかけるべきです。

=====

次号で続編をお届けします。

（水川晶子記）

【私の履歴書】（その 2） 市民運動と共に

阪野 修（1949 年生まれ）

< 4 > 「上目線」か「下目線」か＝オウム真理教と一緒にやなあ

阪神淡路大震災からオウム事件と続き日本中が大騒ぎの最中に、先輩との立ち話を強烈に覚えている。「首都圏中心に生活クラブという生協があって、解放運動にとっても学ぶことがある」と必死に話した時、「オウム真理教と一緒にやなあ」と言われハッとした。

その意味は私も即理解できた。生協は、あるべき社会像を明確に描き「自立した女性たちの協同の力」でその実現を目指す。理念、行動の立て方は、あるべき絶対的に正しい理論から導き出す「上目線」である。今でも商品のことを消費材と表現するようにと、末端組合員にも強制する。どっちでもエエが、消費材と言えばこだわり派生協の主張を貫徹すると思い込んでいるようだが、私は生協に多様性がない象徴になっていると思う。

一方私が関わっている「解放運動はなあ、一番シンドイ人に光を当てて大衆みんなで運動を創る

のや」と「下目線」の運動を志向するように変わってきている。よい運動と思われる解放運動や生協活動と悪いオウム真理教も「上目線」で世の中を見ている共通性があり、人間を気づかぬうちに良い人と悪い人に区別することになっているのだ！「オウム真理教と一緒にやなあ」と言ってくれた先輩は、私は「下目線」で活動するように変わっているのに、「上目線」の生活クラブから学ぶことがあると強調するのはおかしいのと違う？と言ってくれていたのだ。

森住補足：泉北生協は生活クラブの傘下に入ったので、阪野さんは期待して「学ぶことがある」と力説したのだと思いますが、ここは「上目線」であったため、組合員が「下目線」で行っていた牛乳パック回収活動を止めたのです。生活クラブは牛乳はリユースできる瓶で飲むべきで、使い捨てられるパックではダメ！という理念を採用しているからです。でも阪野さん達が頑張っただけで変更を1年間延期することができました。

< 5 > 若いお母さんたち＝子どもに真っ赤なハムを食べさせたくない

狭山闘争の盛り上がりを経て、部落外の女性たちも結婚を機に被差別地域に居住する人も増えた。彼女たちは、外の世界のエエところを持ち込む役割も果たすべく、生協に安全な食べ物を継続して供給することを要望した。

この時、新しく起業することでその要望は解決した。安全な食べ物を継続して購入する人たちのため、「食正会」と名乗るもう一つの「生協」を生協内に組織した。注文書、商品や納品書などは泉北生協からお借りし、配達私が担った。その売り上げは経営的にも安定させた。生協の規約等にも合致できるように事前に見直して。

この活動での気づきは、解放同盟の支部員で食生会に参加する率とニュータウンでの生協加入率にあまり差がないことだった。生活実態、基盤に大きな違いがあっても、日常生活の見直しという広い土俵では共通項が多いことだった。

< 6 > 解決の道は一つだけか？＝牛乳パック回収運動

1990年代、山梨県の1人の女性からの投稿をきっかけに全国に拡散した牛乳パック回収運動。「街にあふれ美観を損ねていた牛乳パックを洗い30枚1組でまとめ製紙会社に渡せば、トイレットペーパー、ティッシュペーパーに再生できますよ」という誰にもできるささやかなリサイクルの呼びかけだった。大阪でこの呼びかけに即応えたのが、あちこちの小さな障がい者作業所だった。散歩途中などで拾い集め、狭い事務所の押入れなどに詰め込んだ。が、牛乳パックで満杯になるのはすぐだった。「何とかして」という声が上がリ、倉庫に余裕があったので「住吉まで持ってくるなら」と手を挙げた。住吉で、製紙会社の納品帰りの大型トラックに積み込み、そのトン数に応じ代金が振り込まれる。問題は、その代金を数多くの小さい団体に分配することだった。ここは、「各団体の自主申告」をベースに計算するために心広く構えた。

そして、このリサイクルが長続きするために、「ただいまロール」、「お帰りティッシュ」1箱の販売価格を1円ずつ高く設定し消費者が負担、製紙メーカーも同額を拠出し、牛乳パックの回収作業を担う障がい者団体等への活動支援の基金としている。環境と福祉の繋がりがゼニを生み出し動かした。

最盛期には滋賀県の実環境生協、尼崎市のみんなの労働文化センター（障がい者団体）と共に住吉生協は関西の拠点となり、時には四国の川之江市の製紙会社まで車を連ねて見学にも行った。最近は継続している団体数は少なくなっているが、それ以上にほとんどのスーパー入り口に牛乳パック、ペットボトルなどの回収ボックスが設置され、それなりの効果を示している。これ

も、一つの社会的成果と言えるだろう。

しかし、環境運動や生協運動の原理主義者からの鋭い批判に晒された。「牛乳の流通はビンで。パック散乱は大量生産・大量流通の結果であり牛乳メーカーの責任。市民運動は何もするな！」とリサイクル運動を否定するものだった。

大きな論争となり京都大学で公開討論会が開催され、私も回収派の実践報告を務めた。回収の実績と共に、「リサイクル運動は限界あるが絶対的な間違いか。環境問題では2番手の価値であっても、庶民が環境問題に関心を持つ入り口、回収する障がい者と市民と一緒に汗を流し、福祉運動に繋がっている」と訴えた。

森住補足：京大での公開討論会の批判は槌田敦氏で、リユースはリサイクルより循環に適しているとの正論を訴え、実践派の私は消費者は重く割れやすい瓶より軽いパックの方を選択する。燃やすよりリサイクルすると少しはよいし、障がい者の生活の糧にできると反論した。あれから30年近く経つが、パックをトレペ・テッシュにする活動は現在も続いている。ただ、この運動は全国化せず関西地方中心である。理論より実践を重視する関西地方の文化がこんなところにも表れている。

「総論賛成・各論？」問題を克服するシリーズ（その2）

2) 行政での選別業務

行政の選別業務は直営と委託の2つがありますが、委託するメリットとデメリットについても基礎知識を持とうと思った方がよいと思います。委託費は人件費と物件費に大別されますが、物件費の作業は差がないはずだから、直営の人件費を節約するために委託される場合がほとんどだと思います。最近では人件費が安くなっているから差がどのくらいあるか？は質問してみた方がよいと思います。ここでは工程を述べるにとどめます。

①破袋機

パッカー車で収集された容リプラは処理施設に入りピットに降ろされ、破袋機に乗せられます。破袋機はベルトコンベアを斜めにしたもので、ついている刃で収集袋を破り入っている容リプラを取り出します。コンベアを平面にすると施設が大きくなるので、上り坂状にして面積を節約するのです。

この時もろい発泡スチロールは砕かれて小片になってしまい選別しがたくなると聞きました。現物は見なかったので次訪れるときには確認したいと思います。

②選別機

破袋機から出てきた容リプラは次に選別機に入ります。これは京都市のHP（図1）に載せられているようなベルトコンベアのこと、両側に人が配置され容リプラと、それ以外の多種類の異物に手選別する装置です。担当者がどのような役割を果たしているのかも現場で尋ねた方がよいと思います。

容リプラ全てが選別されるのではなく、①で述べた小片になった発泡スチロールは「異物」になっているのだと思いますが、訪問した際は確認したいと思います。

ラップも「異物」になると思います。くしゃくしゃの小片になっているので、選別できないと思うからです。これも確かめたいと思います。

第3に“汚れた容リプラ”も「異物」になります。これはどの行政のHPにも書いていますが、脂分を

含む汚れを取るには費用が掛かりすぎかえって Co2 が増えるなどするから、予め住民に除去してもらうのです。ただ汚れは主観なので現実には千差万別になっていることを現場で確認することが大切です。

第4に製品プラも「異物」になります。材質的には容リプラと同じですが、後者は容リ協が費用負担してくれますが前者はしてくれず、「分別基準不適合物」にされてしまうからです。そうなるとうなるのか？は見学時に担当者に確認した方がよいと思います。

③その他の「異物」

プラ以外の「異物」で困るものは、図2に示すようにリチウムイオン電池、金属類等々多種類あり、これらは②で述べた「異物」同様焼却場等へ戻されます。変換率は1割程度と言われていますが、これも担当者に尋ねることが大切です。

④ベール機

最後は選別された容リプラを圧縮して減容し針金で縛ります。この作業をベール化と呼んでいます。法的には「分別基準適合物」と呼ばれ、容リプラが90%以上にすることが義務化されています。90%未満なものは、見学した行政で尋ねましょう。

⑤リサイクル率

プラのリサイクルに疑問を持つ行政の担当者の中には、リサイクルしすぎてごみが燃え難くなったと言う人がいます。単に聞くだけでなく根拠を確かめることも重要です。大阪市の事例では、ごみ中のプラの含有率は14%程度です。含有率には水分を除いた『乾ベース値』と水分を除かない「湿ベース値」の2つありますが、この14%は「湿ベース値」です。

焼却ゴミは約100万tなので、プラは14万トンになります。プラは容リプラと製品プラに大別されるから、計算上は14万トン全てがリサイクル対象物になりますが、現実には分別された容リプラは1.7万トン（令和3年度）ですから、リサイクル率は12%しかありません。大阪市はこの原因を調べていませんが、想定される主因は協力する市民が少ないことだと思います。第二に②、③で述べたように「異物」と判断されるプラが多いことだと思います。どの市もいろいろ工夫してHPなどで広報していますが、残念ながら関心を持ってもらえない厳しい現状になっています。③行政のHPを見ると工夫してわかりやすくしているが、それでも多種類あるプラ全てを表示するのは限界があり、容リプラであることを表す“プラマーク”はつけてもPE、PP等の材質は書いていない事例が多いから、これも見学時確認して容リ協に共に要望することが大切です。



図1 選別機（ベルトコンベア）



図2 異物

（森住明弘記）

宝塚市

帝釈・丹生山系

大甲山系

摩耶山

六甲山最高峰

垂水区

北
六甲山
隆起
有馬-高槻断層帯
淡路海峡断層
五助橋断層
明石海峡
大阪平野
沈降
大阪湾
大阪層群
花崗岩
強い力

「兵庫県南部地震(阪神淡路大震災)」の震央は明石海峡でしたが、六甲山には無数の断層があり余震が多発しました。2024 年正月に発災した「能登半島大地震」では、輪島市西部で最大 4m の隆起が確認されましたが、同様のメカニズムで形成されたのが六甲山なのです。

ある小学校の教室。先生が「パン屋さんとお風呂屋さんはどっちが偉いですか？」と生徒に聴いています。生徒はどう答えたらいいか考えました。その時、意を決したある生徒が立ち上がってこう言いました。「どっちも偉いです。先生の質問がおかしいです」。

私の3人の姉は、中学を卒業して、2人は夜間高校に行き、一人は進学しなかった。一番年上の姉は、母親に昼間の高校を希望した。しかし、帰ってきたのは就職試験の案内であった。日本全国で見られた哀しい風景だ。私は末っ子の男子で、私だけ進学させてもらった。

競馬で有馬記念というレースがある。農林大臣だった有馬頼寧を記念したものだ。有馬は東京都台東区のお屋敷で生活したが、小学校の同級生で、自分よりずっとよく勉強ができる友達が、進学できない姿を見て、申し訳ない気持ちで一杯であったという。後に被差別部落の解放のために同愛会を設立したり、浅草に託児所や小学校、夜間中学校をつくったりした。

毎年、春秋に叙勲がある。昨年11月秋の叙勲者を調べてみた。新聞紙面に出る瑞宝中綬章以上の受章者403名のうち、政府・司法関係者は187名、地方自治体関係者は41名、財界は最上級の、かつての勲2等に集中して7名、大学関係者は153名、その他25名だった。日本社会に幾百とある職業の中で、たった4種類の職業のみが綬章されている。

私はこの叙勲の問題を考える時、社会の基礎を作り続けている人々のことを思う。たとえば深夜、車が絶えた時間帯に道路工事をして下さっている人々を思う。人々が寝てふたたび起きる、その短時間に、仕事をしてしまわねばならない。これらの労働者の少なくない人々は、多く臨時の仕事に雇われた人々である。また新幹線の保線の映像をみたことがある。1ミリの過誤も許されない、仕事だ。これらの毎日をしてもらっているおかげで、日本の大動脈は動いている。この人々の労働と総理大臣の仕事とどちらが上か、あるいは下か。問うのは愚問である。

総理大臣はそれだけで、すでに栄誉はもらっていると思う。叙勲はさらにその上に、もっと栄誉をとという話である。それは自らによる自らの授与以外に他ならない。自画自賛にすぎない。国家のお金で自分たちへの、お褒めの制度であって。国費濫用（乱用）である。

それぞれの分野の仕事は、それぞれの分野で、それぞれのやり方で褒賞でなされるのが良いと思う。それは各省ごとになされていることである。

芸能界、書道界、それぞれの小社会、それらをひっくるめて、ランク付けすることは、不可能である。ランク付けすることは、

ただただ現代の職業差別を拡大する、新しく作り出すだけだ。百害あって一利ない。

このような格差づけ作業を、未だに続け、そのために巨大な国費を投じている国は日本ぐらいなものであろう。賞勲局の職員が数百人。そして各省・関係団体、地方自治団体などの叙勲担当者も常時存在している。

これらの膨大な経費を、ただ家にお金がないために進学できない子どもたちのために費やしたら、それこそ賞勲に値するように思われる。